令和７年度 第２回 酒田市地域公共交通会議　議事録

会議名	令和７年度 第２回 酒田市地域公共交通会議
開催日時	令和７年１２月３日（水曜）10 時 00 分～11 時 30 分
開催場所	酒田市役所７階　７０３会議室 （酒田市本町２丁目２−４５）
出席者 （敬称略）	委員２０名 ・酒田市副市長　安川 智之（会長） ・東北公益文科大学学長　神田 直弥（副会長） ・庄内交通株式会社代表取締役社長　村 紀明（副会長） ・一般社団法人山形県バス協会会長　村 紀明 ・一般社団法人山形県ハイヤー協会酒田支部支部長　山﨑 正人 ・酒田市自治会連合会会長　小野 英男 ・酒田市地区自治会連合会会長　佐藤 淳（監事） ・八幡地域協議会会長　信夫 効次 ・松山地域協議会委員　石川 百合子 ・平田地域協議会会長　石黒 由香 ・酒田飽海ＰＴＡ連合会母親委員会委員　佐藤 永 ・特定非営利活動法人酒田市障がい者福祉会監事　池田 智惠子（監事） ・私鉄庄内交通労働組合執行委員長　小林 浩行 ・国土交通省東北運輸局山形運輸支局首席運輸企画専門官　遠山 健 ・酒田警察署交通課長　渡邉 剛志 ・山形県庄内総合支庁建設部道路計画課課長補佐　生方 昌樹 ・山形県庄内総合支庁総務企画部総務課連携支援室主査　三浦 拓 ・酒田市建設部土木課課長補佐　齋藤 博規 ・酒田市地域創生部交流観光課長　松永 隆 ・酒田市健康福祉部地域福祉課長　阿部 美穂 事務局４名 ・酒田市企画部長　加藤 義和 ・酒田市企画部都市デザイン課長　本間 宏樹 ・酒田市企画部都市デザイン課地域公共交通係主査　岩﨑 進 ・酒田市企画部都市デザイン課地域公共交通係主査　大井 一平
欠席者 （敬称略）	委員１名 ・国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所道路管理課長　鈴木 健 事務局１名 ・酒田市企画部都市デザイン課課長補佐　大井 正紀
陪席者 （敬称略）	庄内交通株式会社専務取締役　髙橋 広司 庄内交通株式会社乗合バス事業部部長　中村 美穂
傍聴者	３名（報道機関２名、株式会社ケー・シーエス１名）
内容	協議事項 （１）次期地域公共交通計画の策定状況とスケジュールの変更について （２）酒田市乗合バスの運行内容の変更について 報告事項 （１）公共交通の利用に関する市民アンケート調査の結果について （２）酒田市乗合バスの臨時便の運行状況について
会議要旨	次のとおり

［進行］事務局（都市デザイン課地域公共交通係主査　大井 一平）

１　開　　会

２　会長挨拶

［進行］構成員 21 名中、出席者 20 名、欠席者１名で過半数の出席があるため、設置要綱第７条第２項の規定により、本日の会議は成立

３　協　　議

（１）次期地域公共交通計画の策定状況とスケジュールの変更について

事 務 局　［資料説明］
資料１ 次期地域公共交通計画の策定状況とスケジュールの変更について

会　　長　スケジュール案を示させていただいた。今後の進め方について、このような委員の皆さんで集まる会議を何回か繰り返すのか、あるいは特定の論点に絞って深い議論をしていくのか、内部で検討してお示しすることになるだろう。来年 3 月以降に実施するパブリックコメントから、12 月の新たな地域公共交通計画の完成公開まで、ずいぶん間が空くと思われるかもしれないが、前倒しで計画を策定するかもしれないし、何かしらの実証事業を行う必要があるならば、年度途中に検討して進めていくこともあるかもしれないと思っている。委員の皆さんから質問や意見はあるか。

会　　長　ないようであれば、ご承認いただけるか。

（承認の声）

会　　長　（１）次期地域公共交通計画の策定状況とスケジュールの変更については、承認された。

（２）酒田市乗合バスの運行内容の変更について

事 務 局　［資料説明］
資料２ 酒田市乗合バスの運行内容の変更について
資料３ 変更となる運行経路と運行時刻

会　　長　ただいまの説明に関し、委員の皆さんから質問や意見はあるか。

会　　長　ないようであれば、ご承認いただけるか。

（承認の声）

会　　長　（２）酒田市乗合バスの運行内容の変更については、承認された。

４　報　　告

（１）「日常生活における公共交通の利用に関する市民アンケート調査」の結果について

事 務 局　［資料説明］
資料４ 「日常生活における公共交通の利用に関する市民アンケート調査」の結果について

会　　長　ただいまの説明に関し、委員の皆さんから質問や意見はあるか。

（なしの声）

（２）酒田市乗合バスの臨時便の運行状況について

事 務 局　［資料説明］
資料５　るんるんバス臨時便の運行実績について

会　　長　ただいまの説明に関し、委員の皆さんから質問や意見はあるか。

（なしの声）

５　意見交換

会　　長　本日の意見交換のテーマについて、事務局より説明いただきたい。

事 務 局　前回の会議でいただいた意見を振り返りつつ、今後の交通体系の見直しにあたって論点になると思われることに関し、資料を準備させていただいた。後半の論点整理については、今後取り組むものということではなく、ひとつの話題提供として委員の皆様から意見を頂戴したい。

事 務 局　［資料説明］
意見交換用資料１　前回皆様よりいただいた主なご意見について（振り返り）
意見交換用資料２　次期地域公共交通計画の方向性について

会　　長　続いて山形運輸支局より情報提供いただいた「クルーズ船寄港時のタクシー実態調査」について説明をお願いしたい。

委　　員　前回の地域公共交通会議で、酒田港へのクルーズ船寄港時には鶴岡市のタクシー事業者からも応援をいただくことを承認いただいた。実際の状況について山形運輸支局で今年度 2 回調査を行ったので報告する。1 回目は承認をいただく前の 5 月、2 回目の 10 月は今年度寄港した中でも 1・2 番目ぐらいの乗客数が多い船であった。目視調査のため、必ずしも正確な数字ではないので、傾向的な意味合いで捉えていただければと思う。
5 月のダイヤモンド・プリンセス号の入港時刻は 8 時、10 月のウエステルダム号の入港時刻は 10 時となっており、入港時刻に違いはあるが、タクシーを待つ人のピークはいずれも 10 時台であった。8 時の入港でも、船内で朝食を召し上がってから下船される人が多いためと思われる。多いときで 80 人ぐらいのタクシー待ちが生じており、待ち時間は 1 回目が最大で約 40 分、2 回目は 1 時間ぐらい並ぶ人がいた。
タクシーの台数もピークはやはり 10 時台で、タクシーが空になった時間帯もある。ピストン輸送でも十分に需要に応えられない状況であったが、11 時以降になると酒田港で乗車する人数が一気に減ってくる。この 10 時から 11 時ぐらいまでのピークの時間帯にいかに対応していくのかが、今後の大きな課題と捉えている。
また、我々が直接見たり聞いたりした中では、タクシーを待っている最中「いつになったらタクシーが来るんだ」などと大騒ぎする人はいなかった。入港時に埠頭で様々な催し物を行っていただいており、それらを楽しみながら待っている様子も見受けられたので、待ち時間を感覚的に緩和できる催し物は大事だと感じた。
各船社のホームページなどを見ると、来年度は今年度よりも大きな船が複数回入港すると聞き及んでいる。タクシー事業者もかなりギリギリの状況の中

で対応していただいている。特に平日の午前中は通院などで利用される人も一定数いるため、平常需要にも配慮しつつ、どれだけピークの時間帯にタクシーを集中できるかが大きな課題である。物理的にタクシーを増やせるのかどうかという検討と合わせ、事前の情報発信であるとか、他にピークを緩和できる手段がないのか、交通会議の委員の皆様からも意見を頂戴しながら、どういった対応が可能なのか、観光協会、山形県、酒田市とも次年度に向けて議論をさせていただければと思っている。

委　　員　来年度、ジャパネットで MSC ベリッシマという定員 5,500 人の大型客船を計 7 回酒田港に寄港してくださることとなっている。乗客はほぼ日本人である。その際にジャパネット側で市の中心部を巡回するバスを運行する。関係各所には今後様々な協力をいただくことがあろうかと思うので、情報交換・意見交換の機会を設け、協議したいと考えている。他の船でも例えば中町－古湊間をバスでピストン輸送することがあるが、ジャパネットでは「巡回」させるものである。この違いはバスの台数であり、少ない台数で巡回した場合、主に帰りにおいて、前の停留所でバスが満杯になってしまうと、次の停留所で待っている人が乗れないということが起きると言われている。このため40台のバスを準備することで、圧倒的な数で巡回が可能だと聞いている。

会　　長　説明のあった公共交通計画策定の方向性や、先の市民アンケートの結果も踏まえ、ここからは意見交換とさせていただきたい。

委　　員　高校生の通学に関して、課題があると考えている。事務局や委員の皆さんで、その課題がどこにあると認識されているかご教授いただきたい。具体的にはバス停の設置とか路線が足りてないとか、あるいは経済的負担が大きい課題なのか。また、保護者や生徒にアンケートを行ったことがあるのか伺いたい。

事 務 局　これまでのアンケートや、実際の利用者の声などを整理すると、やはり利便性の向上が最も求められていると感じている。具体的には始業時間に間に合うようなバスダイヤや、学校近くへのバス停設置など、まずはバスが通ることである。経済的な部分は、優先順位としては 2 番目ぐらいという認識である。一方で、高齢者の通院や通学に関する移動ニーズに応えられる供給量を揃えられるのかが課題で、非常に苦しいところ。タクシーの台数も運転手の数も限られており、一般利用者もいる中で、通学などのニーズを公共交通で支えきれていないというところが地方都市では悩みどころであると感じている。

会　　長　ただいまの意見に対して、皆さんの意見を伺う。

委　　員　学生の通学に関して、私事で申し訳ないが、自分は保育園から庄内交通バスを使っており、小中高も全部バスで通った。今はほとんどの家庭が自家用車で送迎していることと比べると、自分は親と過ごす時間がすごく少なかった。朝の忙しい時間や帰りでも、送迎の数十分の間は個室で親と話ができるため、苦痛なく送迎している家庭にとっては良い面もある。一方で、経済的であったり、職場が学校の方向と違うとか、時間が合わない等でサポートが必要な家庭も当然あると思う。ここ10年程度で酒田市の人口が1万人ぐらい減っていて、出生率もどんどん下がっている。加速する人口減少を見越して、これからの方向性を見出し、対応していく必要があると思う。

会　　長　酒田市の人口は、平成 28 年では約 10 万 5 千人、令和 6 年は約 9 万 4 千人で、約 1 万 1 千人、10.5%減少している。また、先ほど説明があったとおり、公共交通を利用している人は 33 万 6 千人から 16 万人に減っている。人口減だけを反映させるならば、本来は 30 万人ぐらいが利用しているはずであるが、減少した 15 万人は送迎など別の手段で移動しているのだろう。親

子のふれあいももちろん大事ではあるが、時間的なロスであったり、それにより例えばフルタイムで働きたいけれどもパートタイムにせざるをえないとか、経済的なロスも生まれていたり、買物需要が減ってしまったということもあるかもしれない。この 15 万人が、何となく減ってしまったというのは結構大きい。それを数字で換算すると大変なことになる。利便性低下による減もあるが、経済的な理由もあるのだろう。

会　　長　　そのほか、いかがだろうか。

委　　員　　全部で 4 点ある。1 点目は高校生の通学に関して、昨年、高校生や大学生などを対象にアンケートをとった際に、高校生の保護者も対象とした。詳細な数字は手元にないが、毎日ではなく時折という人も含めると、約 9 割の保護者が高校生を送迎しているということだった。そのうち、負担を感じている人が 6 割で、仕事や家事などがある中で子供の時間に合わせるのが大変だという理由が一番多かった。一定程度負担を感じている人はいるため、対応が必要だろうと思う。
また、酒田市の協力を得て、現在るんるんバス酒田駅大学線の乗降状況調査を行っている。朝の時間帯に高校生は乗っていないが、夕方の時間帯になるとバスを活用する様子が見られるので、もう少し朝の時間帯の利便性が高まれば、帰りだけでなく朝も利用できる可能性が高まってくる。今回、いろは蔵パークのバス停を冬季間だけ移動するということだが、高校の近くに持ってきたことでどのような結果が出るのか楽しみである。推移を見守りたい。
2 点目は要望であるが、今回酒田駅大学線の乗降状況を調べるにあたって、酒田市からドライブレコーダーの映像を提供いただいたことで、どのバス停で何人乗って、どのバス停で何人降りたかというのを調べた。これによって単純に人数だけでなく、大まかではあるが年代も分かったが、映像を見るのがすごく大変だった。資料では、バス路線が長いため、今後はもう少しシンプルに短くした方がいいのではという方針が示されおり、これはこれで検討していくのが良いと思うが、現在の利用者の乗降状況が分からないと、各路線をどこからどこまで走らせるのかが定められないと思う。ぜひ乗降データが取れるように、交通系 IC カードの導入は難しいとは思うが、車内に AI カメラを取り付けて自動認識できるようにするなど、方法はいろいろあると思う。経験や勘に基づくのではなく、取得した乗降データに基づいて議論や意思決定ができるようにしていく必要があると思う。
3 点目は、先ほど 80 歳以上で運転免許の返納を考えている人が一定程度いる一方で、それ以外の人は返納するつもりはない、というデータを説明いただいた。車を運転しなくなった後はバスで移動するというイメージがあるが、過去の調査では公共交通を使っている人はあまり多くなかった。酒田の人は、割と運転ができるギリギリの状態まで粘るというか、免許返納の段階では健康状態もあまり良くなくて頻繁に外出することも難しい状態になっている人が多く、公共交通の利用に繋がっていかない感じがする。公共交通の利用者を増やしていくにあたって、高齢者をターゲットにするにしても免許返納後ではなく、車を使いながら、例えば健康の観点であるとか、CO2 排出量の削減といった環境の観点などから推進していかないといけないと思う。可能であれば、免許返納後の移動手段として公共交通が使われているのかどうかを調べていただければありがたい。
最後に質問であるが、先ほどの話題でクルーズ船来港時に鶴岡からタクシーの応援が来ているとのことだったが、日本版ライドシェアについて、タクシーが不足する時間帯だけではなく、イベント等を実施する時間帯にも運行可能になっていると思う。酒田市でも今まで 2 台ライドシェアに登録していると思うが、今後拡大していく可能性があるのか伺いたい。

会　　長　　ただ今の意見に関して、まずは事務局からよろしいか。

事 務 局　思春期の子供とコミュニケーションとる機会として送迎が苦にならない人もいる一方で、負担だと感じる人もいるため、家庭環境によって状況が違うというところは感じている。また、統計的には自力で通学できない地域では、親子で転出して人口減少が進んでいるというデータもある。送迎できる家庭はいいが、公共交通も選択肢にできるように対策していく必要があると思う。
意見をいただいた 1 つ目のいろは蔵パークのバス停を少し移動させる件は、冬ダイヤの状況を見て安全性と利便性が確認できれば、例えば「酒田東高校口・いろは蔵パーク」というような新しい名称のバス停にできるか、検討材料にしていきたいと考えている。
2 つ目の乗降データに基づいて路線改変をしていくべきという意見は、当方でも非常に実感している。来年度の予算要求に向けて AI カメラ導入の見積りも取ってみたが、市の単独予算だと厳しいため、交付金や国土交通省の補助事業の活用なども含め状況を整理した上で、市民から要望が多いキャッシュレス決済と合わせて、今後どういった方法があるのか検討していきたい。
4 つ目のクルーズ船関連でライドシェアを拡大していくのかという点については、現在のライドシェアのやり方はタクシー事業者の理解が必要であるため、交通事業者を交えてより良い方法を議論・検討していかなければならないと考えている。

委　　員　現在酒田市内でライドシェアの資格を取っているのは 1 社だけであるが、実際問題として乗務員が集まらない。また、本来のライドシェアと日本版ライドシェアの大きな違いは所得補償である。前者は個人事業主であるため所得補償が不要で、仕事がなければ収入もゼロである。ところが後者の日本版は、仕事があろうとなかろうと所得補償をしなければならない。それであるならばライドシェアでやる必要はなく、普通のタクシーでよい。また何かあった際のクレーム処理はどうするのかということもあるし、タクシーであれば貸切り料金があるわけだが、ライドシェアで同じことができるのかなど、まだまだ勉強していかなければならないし、制度自体を改善してもらわないと現時点で活用するのは難しいと考えている。

会　　長　そのほか意見はあるか。

委　　員　要望事項として酒田市に協力いただきたいことがある。クルーズ船来港時にいろは蔵パークでタクシーを呼ぶのが大変であると観光物産協会から要望があり、タクシーの乗降場所を設置してもらった。ありがたかった反面、場所によっては混雑の原因にもなるため、大きい船が来たときだけでよいので、るんるんバスやデマンドタクシーの停留所をお借りしたい。4 台分程度の待機場所をいろは蔵パークで別に貸してくれるということであるため、利用者をピックアップするときだけ使用する。また、いろは蔵パークより、タクシー乗り場を示す看板を設置してほしいとあったので、交流観光課で準備して頂けるとありがたい。ぜひとも検討いただきたい。

事 務 局　るんるんバスの乗降と重なる時間帯を避けていただければ調整は可能であると思うので、前向きに検討していきたい。クルーズ船の来港は年数回であるため、一時的な需要である。ライドシェアについて副市長の許可が得られれば、市職員が副業で当日一時的にタクシー会社の社員として雇っていいただく形でタクシーの運転手をやることで、対応できる可能性があるかもしれない。

委　　員　日本版ライドシェアについて補足する。先ほどの発言にもあったが、イベント時には日本版ライドシェアの活用が認められているため、自家用車あるいは一般ドライバーを活用しての輸送が可能である。酒田市で許可を受けてい

るのは１社２台であるが、実はまだ稼動までには至っていない。県内でも尾花沢市や山形市でライドシェアの動きが進んでいるが、一番のネックになっているのは労務管理である。山形市では事業者の方で調整が難航しているようで、まだまだ時間がかかると聞いている。全国でも自治体職員がドライバーとなる事例は実際にあるため、労務管理の問題がクリアできれば様々な人を活用できる。尾花沢市では、銀山温泉の観光客を対象に、スイカ農家が冬の農閑期にドライバーとして従事し、逆にタクシー会社のドライバーが夏場の少し需要が落ち着いた時期にスイカ農家を手伝いに行くという相互的な行為をされている。酒田市内でも一時的であれば制度を十分に活用できる民間の方が、掘り起こせばいるかもしれない。

会　　長　　そのほか意見はあるか。

委　　員　　本日の会議資料について、事前送付していただきたかった。会議が始まってから資料の内容を確認、理解して、考えをまとめるためには時間を要する。また、案内をいただいたときの議題に、地域公共交通計画のスケジュール変更の話がなかった。事前に資料をいただいて、少し考える時間をいただけるとありがたい。

事 務 局　　今回は直前にバタバタしてしまい、当日配布になったことについては大変申し訳なく思う。以後気を付ける。

会　　長　　そのほかなければ意見交換を終了する。

６　そ の 他

特に無し。

７　閉　　会